



こころの中を見つめよう 情愛を広げるために

2011～2012 年度

国際ロータリーテーマ：カルヤン・パネルジー会長



Rotary Club of Tokyo-Akasaka

赤坂

NO.1167 / 2012. 1. 27

東京赤坂ロータリークラブ

例会日／毎週金曜日12:30

例会場／ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局／〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8

赤坂2丁目アネックス3F

Tel / 03-3505-5976 Fax / 03-3505-6004

E-mail / akasaka-rotary@w8.dion.ne.jp

URL / http://www.akasakarotary.com/

Weekly Report

東京赤坂ロータリークラブ週報

「未来に向かって広げよう心の絆 赤坂ロータリークラブ」

2011～2012 年度・東京赤坂ロータリークラブテーマ／高須康有会長

●本日の例会 / 2012 年 1 月 27 日 第 1193 例会
第 4 回クラブ協議会 13:10～14:30
「上半期クラブ活動報告、下半期クラブ活動計画」

●前回報告／2012 年 1 月 20 日 1192 回例会
卓話：「最近の学校建築 ほか」
株式会社 日総建 取締役 中川 達夫 氏



卓話紹介：石井会員

会長報告：

昨年のクラブ創立 25 周年記念式典に、韓国公山城ロータリークラブの皆様が来られました。その際、大変立派なお土産を頂戴しましたが、今まで時間がなく紹介できないでございました。聖徳大王神鐘

(エミレの鐘)と呼ばれる鐘のレプリカで、大変貴重なものです。(この鐘に関する詳しい話は週報の今週号に掲載しておきましたので、ご覧願下さい)

25 周年記念実行委員会：(橋本副委員長)

前回の例会で 12 月 15 日に実施致しました、25 周年記念式典・祝宴の写真を DVD に編集しまして皆様にお渡しいたしました。この度、村山会員の編集で小冊子写真集を作る事と成りました。

この写真集はコンパクトで便利に見たり見せたり出来ます。希望される方は 27 日の例会で受け付けますので登録願います。費用は 1500 円です。尚サンプルを受け付けにあります。以上宜しくお願い致します。



親睦活動委員会報告：(清水委員長)

3 月 6 日 (火) に銀座交詢社で「新入会員歓迎会」を行います。(火曜会の集まりも兼ねています) 奥様のご参加も是非。



幹事報告：

- ① 例会受付の当日担当者 (SAA、親睦委員会) の集まりが最近大変遅くなっています。当日の担当者は必ず、12 時 10 分前迄には受付が出来る様にお願いします。
- ② 入会の浅い会員の方は、週報の中の毎月 1 回行われる理事会の議事録を確認して下さい。赤坂ロータリークラブの活動で何をやったか、その結果どうなったか、又これから何をするのかと具体的な活動内容が分かります。



1 月 20 日 (金) / 10 件 20,000 円

累計 724,000 円

多額の寄付を有難うございました。

高須康有/中川様、本日の卓話ありがとうございます。楽しみにしております。石井謙次/中川さん、本日の卓話宜しくお願いします。清水寛/受付のカウンターに昨年から、ちらしを置いているオペレッタの公演が 2 月にあります。1 割引で買って頂けると有難い。田村昭二/久しぶりの雨で、喉が少し楽です。藤井万博/皆様、本年もどうぞ宜しくお願い致します。竹本孝三郎/小林さん、お世話様です。年末年始は带状疱疹で苦しみました。30 日で完治。皆さま熟年にでるそうですのでお氣をつけください。西澤民夫/やっど雨が降りましたね!!小林さん、今日も先週についてご苦労様です。小林博茂/本日のニコニコ担当岡澤さん、PH 務めました。このツケは次回お願いします。皆様御協力ありがとうございました。佐藤仁/私は今年初例会です。おめでとうございます。岡澤実/小林さんに全て任せてしまいました。(ありがとうございます) 今年もよろしくお願いします。

出席報告：会員 43 名/出席 23 名・欠席 20 名

ゲスト：中川達夫 (卓話)、三岡裕和

ビジター：ジョセフ・シュールゾイス (東京 RC)

計 3 名 (順不同・敬称略)

聖徳大王神鐘(エミレの鐘)の話

新羅千年の都である慶州にある国立慶州博物館は、新羅の文化遺産を一目で見ることができる韓国を代表する博物館です。

悲しい伝説に包まれ、博物館を訪れる人の涙を誘うのが、門の近くに建つこのエミレーの鐘(国宝)です。

最初に鐘を鋳造した際、どうしても音が響かないため、幼い女の子を人柱として作り直したのです。出来上がった鐘は美しい音色を響かせたが、その音は「エミレー、エミレー(お母さんの古語)」と叫ぶ子供の音のようだったと伝えられています。



別名エミレの鐘、

又は奉徳寺鐘として知られるこの鐘は、統一新羅時代第35代景德王(742~765在位)が亡くなった父王聖徳大王(702~737在位)の冥福を祈るために、銅12万斤を入れて造ったが失敗に終り、その子である恵恭王7年(771年)に完成した大鐘であります。

初めは聖徳大王の願刹である奉徳寺にかかっていましたがその後、霊廟寺、慶州邑城の南門、東部洞の昔の博物館をたどり、1975年今の博物館に移されました。30年の歳月をかけて造られたこの鐘は、重さ19トンにもなります。華麗なる様式、美しく余韻の長い鐘音、その優雅な形など、韓国の鐘を代表する傑作であり、佛教文化を代表する優秀な工芸品であります。

(ホームページを参考に、高須会長、村山が編集)

ロータリーニュース

インドで1年間ポリオの新たな感染が報告されず
米国イリノイ州、エバンストン発(2012年1月13日)
- 最近までポリオウィルスの温床となっていたインドでは、1年間、ポリオ(脊髄性小児まひ)の新たな感染が一件も報告されておらず、世界ポリオ撲滅活動を展開してきた全世界のロータリー会員は、油断を許さぬ状況に慎重さを保ちながらも、この快挙に喜びの声を挙げています。インドでのポリオ症例が最後に記録されてから、1月13日でちょうど1年となります。27年前、世界からポリオを撲滅するという目標を掲げて以来、人道的奉仕団体であるロータリーの全世界の会員約120万人、特に11万6千人を上回るインドのロータリー会員は、撲滅への固い決意の下、子供たちへの全国一斉予防接種など、懸命な撲滅活動を行ってきました。
(ロータリージャパンより)

中国経済の成長の分析

中国国内では過去30年にわたる経済成長を説明するのに「2台の馬車」と言う言葉がもちいられる。「2台の馬車」の1つは「対外輸出」であり、もう1つは「固定資産投資」(公共事業)である。

今までの中国の高度成長を引っばってきた原動力はまさにこの2つであり、数字を見ても、まさしくその通りである。過去30数年、中国経済の平均成長率は10%前後であったが、2001年にWTOに加盟した後の中国の海外輸出の伸び率は、年平均25%以上であった。

もう1台の「馬車」である固定資産投資の場合もそうである。中国経済の成長率が10%だったにもかかわらず、過去30数年間、中国の中国国内の固定資産投資だけは年25%~30%程度の伸び率を記録してきた。固定資産投資の伸びは経済全体の成長の2、3倍になっているから、経済成長の投資拡大に対する依存度が高すぎるという異常事態が30年以上も続いたわけである。

これは歪んだ形での成長であるといえる。つまり中国の経済成長は、国民の消費拡大によってではなく、輸出の拡大(すなわち外国人の消費拡大)と、消費の反対側にある投資の拡大によって支えられた国民不在、政府主導型の「成長のための成長」といえる。

日本の場合には、GDPに占める個人消費は60%であり、米国は70%であるのに対して、中国では36%と大変に低い。中国経済は投資拡大の為に、多くの資金が中央銀行から放出されたことからカネ余りとなり、それが現在のインフレにつながったのである。「内需と外需のアンバランス」と「投資と消費のアンバランス」つまり、「中国経済の二重不均衡」こそが、中国経済の抱えるすべての問題の病巣となっている。

2012年は、EU、米国、中国及び日本経済にとっても激動の年となるであろう。

●次回予告/2012年2月3日(金) 第1194例会

卓話予定:「来日交換学生として」

青少年交換来日生 ゴーイ・ウィンバーン 氏